

## 絆深める場を提供する

### 瑞穂コミュニティセンター 運営委員会



▲真剣な面持ちで壁に映し出された映像を見る子どもと高齢者

**建**設されてから今年で20年目を迎えた瑞穂コミュニティセンター。住吉町第一町内会と5つの瑞穂地域住民の活動拠点として日々活用されています。この施設の管理運営を担う運営委員会（杉谷久己委員長）では、この節目の年を迎えDVD民話映画鑑賞会を企画。「何かできないだろうか」と現在管理人として活

躍している尾関一二三さんが委員会に提案し実現しました。鑑賞会は今年の5月から始まり、計5回開催。「地域の子どもたちと高齢者が交流しながら絆を深め、顔の見える関係を作りたい」という思いがありました」と話す杉谷委員長。「要望があれば子供会や他の地域にもDVDを貸し出していきたい。今後このような企画があれば、他の地域の方にも来てほしい」と期待を膨らませています。また、尾関さんは「高齢者も地域の活動に参加してほしい」という思いで老人クラブに声をかけ、「DVD鑑賞という形ですが、子どもたちと交流することができるとなれば嬉しい」と喜びを話します。会場となったセンターの玄関先では、できたての綿あめやポップコーンが振る舞われ、委員会役員としてお菓子作りに追われていた野原武さんは「初めての企画でしたが、子どもたちや高齢者にも大好評です。上映の休憩中にお話したりしながら交流できる機会を作ることができました」と話します。また、センターは地域住



▲玄関でできたての綿あめを受け取る参加者たち

民が利用する以外に、学生などの合宿場所としても利用され、「試合結果の連絡をくれたり、帰り際に『ありがとうございました』と感謝されたときは、管理人をしていて良かった」と長年にわたり管理運営に務めてきた思いを尾関さんは話します。現在は、ダンスサークルや書道教室など定期的に利用され、年々利用頻度も増えてきています。「毎年センターの利用者が増えていくようにいろいろ考えています。地域住民には、法事などでも利用してほしい」と話す尾関さん。「75歳以上の住人が71人もいます。ふれあいサロンなど、子どもたちと高齢者がふれあう機会が増える企画を考えていきます」と今後にもコミュニティセンターを拠点とした地域活動が期待されます。